

医学系研究に関する情報の公開について

| | |
|-----------------------|---|
| 研究機関名* | 独立行政法人労働者健康福祉機構 大阪労災病院 |
| 研究課題名* | Evaluation of short- and long-term Outcomes Following Laparoscopic Surgery for Colorectal Cancer Compared with Open Surgery: A Propensity Score-Matched Analysis |
| 所属科* | 外科 |
| 研究責任者* | 末田聖倫 |
| 研究実施期間 | 開始 西暦 2010 年 1 月 1 日 ~ 終了 西暦 2021 年 12 月 31 日 (予定) |
| 対象疾患 (予定症例数) | 根治切除を施行した Stage I-III 大腸癌 (1181 症例) |
| 研究対象となる治療・手術・検査の時期 | 自 西暦 2010 年 1 月 1 日 ~ 至 西暦 2018 年 12 月 31 日 |
| 研究概要* | <p>大腸癌は、世界的に罹患率の高い癌腫の1つである。近年、結腸癌に対する開腹手術と腹腔鏡手術を比較するランダム化試験が行われており、腹腔鏡手術の周術期における有効性と安全性が実証され、結腸癌に対する腹腔鏡手術が腫瘍学的に安全で有効であるという概念が確立されている。しかしながら、以前の報告は、患者背景にセレクションバイアスがあり、腹腔鏡手術の有用性を示すにはまだ議論の余地があった。また長期予後に関してはまだエビデンスに乏しい。</p> <p>以上から、本研究では、根治切除を施行した結腸直腸癌患者を対象とし、腹腔鏡手術と開腹手術の短期および長期予後を含む腫瘍学的アウトカムを比較検討することを目的とした。さらに本研究では、選択バイアスを最小限とするために、傾向スコアを用いた分析を採用した。</p> |
| 倫理的配慮・個人情報の保護の方法について* | 連結可能匿名化を行う。対応表はそれぞれの部署（施設・研究室）で厳重に保管する。本研究で得られたデータを当院外へ提供する際には対応表は提供せず、連結可能匿名化されたデータのみを提供する。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。 |
| 研究の問い合わせ先* | 大阪労災病院 外科 末田 聖倫 Email: suedas11@yahoo.co.jp |